

令和4年度行政事業レビューシート ( 文部科学省 )

事業名	科学技術国際活動の推進			担当部局庁	科学技術・学術政策局	作成責任者			
事業開始年度	平成23年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	参事官(国際戦略担当)付	参事官 (国際戦略担当) 大土井 智			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	第6期科学技術基本計画(平成28年1月閣議決定)				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度以 内)	研究者の科学技術国際活動の状況について調査し、各国との持続的な関係構築を促進するための基礎的な情報として活用されることを目的とする。 また、先端分野における欧米等先進国との大型国際共同研究の支援を通じ、我が国研究者の国際トップサークルへの参入促進等を目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	我が国の国公立大学・独立行政法人等の研究者の派遣・受入数を国別、期間別といった観点から調査し、諸外国との年間の研究交流状況等を分析する。 また、政府主導で設定する先端分野において、欧米等先進国のトップ研究者との大型国際共同研究を、両国の研究支援機関も協働しつつ支援するとともに、この共同研究を通じ、国際トップサークルへの参入促進と今後の参画・連携の土台作りへ貢献。 これらの取組をもって、我が国の研究力の維持・向上を図る。								
実施方法	委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	5	5	55	18	3,518		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	5	5	55	18	3,518		
	執行額	5	5	5					
	執行率 (%)	100%	100%	9%					
当初予算+補正予算に対す る執行額の割合 (%)	100%	100%	9%						
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由					
	研究開発推進費	-	3,500	研究開発推進費科学技術試験研究委託費について、両国の研究支援機関も協働した、先端分野における欧米等先進国との大型国際共同研究の支援を新たに実施するための経費を概算要求している。					
	科学技術試験研究委託費	18	18						
	科学技術・学術政策推進費								
	科学技術試験研究委託費								
計	18	3,518							
活動内容 (アクティビ ティ)	研究者の所属機関への科学技術国際活動の状況の調査を行い、結果を公表することで、各国との持続的な関係構築(戦略的な国際共同研究や政府間会合等)の促進、および国際交流の推進を支援する。								
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	研究者の持続的な国際交 流の活性化、関係構築に 向けた取組の増加を目標と する。	調査結果に係る概況資料 における調査項目・観点数 を活動指標とする。	活動実績	項目数	10	12	12	12	12
			当初見込み	項目数	10	10	10	10	10
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	執行額/報告書数			単位当たり コスト	百万円/報告書	5	5	5	5
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
	政府文書への掲載回数を 毎年3件以上に維持する。	政府文書(科学技術白書 等)の掲載回数を成果指標 とする。 ※文部科学白書、科学技 術白書、科学技術要覧、国 際戦略委員会報告書への 掲載。	成果実績	回	4	4	4	-	-
			目標値	回	3	3	3	-	-
			達成度	%	133.3	133.3	133.3	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	文部科学省調べ								

活動内容 (アクティビティ)		政府主導で設定する先端分野において、欧米等先進国のトップ研究者との大型国際共同研究を、両国の研究支援機関も協働しつつ支援するとともに、この共同研究を通じ、国際トップサークルへの参入促進と今後の参画・連携の土台作りに貢献する。							
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込
	支援のスキーム等について検討中のため未定。	支援のスキーム等について検討中のため未定。	活動実績	-	-	-	-	-	-
			当初見込み	-	-	-	-	-	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	-		単位当たりコスト	-	-	-	-	-	
			計算式	-	-	-	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								年度	年度
	支援のスキーム等について検討中のため未定。	支援のスキーム等について検討中のため未定。	成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
		達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)									
経済・財政再生計画との関係	政策評価	政策	政策7 インノベーション創出に向けたシステム改革						
		施策	施策7-2 科学技術の国際活動の戦略的推進	政策評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20200930-mxt_kanseisk02-000010162_01.pdf				
<b>事業所管部局による点検・改善</b>									
国費投入の必要性	項目			評価	評価に関する説明				
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	本事業は、研究者の派遣・受入れ等の年間の国際交流状況等を調査・分析しており、毎年度政府文書に複数回引用されるなど社会のニーズが高い事業である。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	本事業は、我が国の国際頭脳循環推進施策の今後の方向性を検討するために、研究者の派遣・受入れ等の年間の国際交流状況等を継続的に調査・分析する事業であるため国が行うべきである。				
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	基礎的な情報として、各種国際関係の基礎資料への掲載ならびに、白書等の政府文書に掲載されるなど、国際的な科学技術政策立案等に資する、政策的に優先度の高い事業である。				
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○					
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。			有	競争性に関する改善策として、今年度も入札期間を延長するなどして準備期間の準備期間を確保し、落札業者の負担軽減のため仕様書の見直しを行うなど、複数者応札を図る。				
	競争性のない随意契約となったものはないか。			無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			○	本事業は、委託事業調査について必要な経費を計上しているものであり、また、契約時及び委託費の額の確定手続きにおいて、書面および現地での調査により、単位当たりコストの水準が妥当であることを確認している。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	契約時及び委託費の額の確定手続きにおいて、費目・使途の内容を厳正に精査しており、支出の合理性・必要性について適切にチェックしている。				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-						
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			○	調査結果の内容が最大化されるよう、委託先からの意見を踏まえ、次年度の仕様書の見直しや、調査票の作成・送付・回収の際の委託業者への助言・サポート等、コストパフォーマンス向上に努めている。					
成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			○	本調査結果を報道発表資料および政府文書で公開することは、各国との持続的な関係構築の促進にあたる情報源となり、研究者の派遣・受入れ等の国際交流を推進する成果目標に見合っている。					

事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	調査を外部委託することにより、直接実施を行った場合に比べ、効果的に実施できている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	調査結果に係る概況資料の調査項目・観点数は、十分実績が得られており、見込みに見合っている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	本調査結果は、毎年度政府文書に複数回引用され、また、国際交流施策の企画・立案、評価、検証に際し、十分に活用されている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	本事業は、我が国と諸外国との年間の研究交流状況等を継続的に調査し、今後の国際交流推進施策の企画・立案、評価、検証などに資することを目的として実施している。本事業を通じて得られた調査結果は毎年度公表され、科学技術白書に掲載されるなど、政策立案や各国との関係構築のための基礎的情報として活用されており、一定の成果があがっていることから、今後も本事業を継続することが重要である。なお、本事業は、契約の競争性や公平性、透明性を鑑みつつ一般競争入札によって適切な委託先を選定している。	
	改善の方向性	仕様書の見直し及び入札説明会の充実等を図ることで、より多くの応募者が得られるよう努め、競争性、公平性、透明性の確保を図っていく。令和4年度は調査項目及び調査情報の公表時期について見直しを行った。今後も引き続き、競争性の向上を図ってまいりたい。	
<b>外部有識者の所見</b>			
外部有識者による点検対象外			
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>			
の事業改善部内改善	この事業は、契約・執行手続きについて、昨年度に引き続き一者応募案件が見受けられるため、内容やスケジュールの見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保すべきである。		
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>			
改年改善度を内検に	競争性の向上に向け、入札期間の延長及び仕様書の見直しを実施した。今後も引き続き、競争性の向上を図ってまいりたい。		
<b>備考</b>			
国際研究交流状況の概況(調査結果公表サイト) <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/kouryu/">https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/kouryu/</a>			
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>			
平成23年度	37		
平成24年度	218		
平成25年度	214		
平成26年度	212		
平成27年度	200		
平成28年度	182		
平成29年度	189		
平成30年度	189		
令和元年度	文部科学省 - 0181		
令和2年度	文部科学省 0182		
令和3年度	2021 文科 20 0196		

